

歴史を歩く 42

～古代中世の海上交流の拠点(横瀬・益丸地区)～ ④ ⑧



14 沢目遺跡

砂丘に埋没した遺跡。砂採取作業中に発見された。平成 11 年に本格的な調査を行い、弥生時代前期(約 2300 年前)・中期(約 2000 年前)・終末期～古墳時代初頭(約 1700 年前)の遺物・遺構が発見された。

かなりの密度で住居が形成されており、また出土遺物から瀬戸内地域や東九州地域で見られるような土器が多く見受けられた。西日本における海上交流の一大拠点が志布志湾岸に存在していたことを裏付ける貴重な遺跡である。



18 大野出羽守の墓

豊州島津方の武将。蓬原地頭であった。薬丸兼持との一騎打ちで深手を負った後、この場所で自刃した。



15 猪鹿倉丹後守忠兼の墓

戦ヶ島古戦場の激戦地に建っている武将の墓。戦でこの地で亡くなっている。百引城主で島津方の武将である。



16 椎ヶ島大明神

もともと猪鹿倉忠兼の墓付近にあった『椎ヶ島』という丘にあった。戦死者の霊を鎮めるために建立された。



17 六面地藏

『椎ヶ島』の戦死者の霊を鎮めるために島津義弘が寄進したと伝えられる。